

「会員短信 63」

「椿に魅せられて」

小泉和子

愛媛県伊予市の住人になり、「伊予つばき協会」の会員になって十四年が経ちました。それまでは京都の宇治に住んでいました。花が好きで、特に山野草は鉢植えにして楽しんでいました。ある朝、夫と散歩をしていましたら、平等院表参道の大鳥居の近くで、一見薔薇と見間違ふ椿に出会いました。その椿には「光源氏」の名札がついていました(宇治は源氏物語ゆかりの地なので、源氏ミュージアムや宇治十帖の碑があり、イベントも催されます)。このネーミングに驚き、八重椿の豪華で上品な美しさに目を見張りました。そして、この時以来、椿に魅せられ、植物園などにも足を運ぶようになりました。

夫の定年を機に、ふる里愛媛の「沈む夕日が立ち止まる町」、双海町を「終の住処」と決めました。転居してまもなく、新聞で松山城二之丸史跡庭園の椿展のことを知り、姉と出掛けました。会場内は外の寒さとは裏腹に、春の陽気かと思われる程、椿が美しく咲き誇っていました。魅せられ続けた椿に再び出会い、即座に「伊予つばき協会」に入会を決め、浮き立つ心で三株の苗木を手に入れました。

あの時、地植えにした椿は、今では私の背丈を越して逞しく育っています。椿の鉢数も年々増え、萬翠荘展や二之丸展で、沢山展示も出来るようになりました。また、椿が縁で八木健会長とも出会うことが出来て感謝しています。

名に恥じぬ光源氏といふ椿

光にも闇にも見ゆる黒椿